

大ウソつき

輸入米(しかも毒入り)が、病院食や学校給食にまで出回っていたというニュースに驚いています。ついでに、右のような写真を思い出しました。今年の1月に成人式だった長男が未だ小学生だった10年ちかく前、国会前で撮ったもので、写真の説明も当時のものです。



「非自民」を標榜した細川連立内閣が、米の輸入に踏み切りました。つづく自民・社会連立の村山内閣が、関税化に踏み切りました。

このときの決定が、いま大問題になっている汚染米の広がりにつながっています。10年たって一本の線につながりながら原因と結果の図式ですが、それを見通せない政党が大多数だったというわけです。

ちなみに、写真説明をお読みいただくとわかるとおり、親子して国会を相手にウソをついちゃったのですが、そうやって何とか入り込んで傍聴した国会は、米輸入の関税化(自由化)を審議していた参議院WTO特別委員会でした。ときの委員長が茨城選出の谷田部センセ。百姓として、当時のウラミつらみは今も鮮明です。

政府は、米を輸入しても、国内産の米の需給には影響を与えないと言いつづけてきました。ところが実態は、コンビニのオニギリにまで入り込むなど、広く深く流通し、国内の農業に打撃を与えてきたのです。11歳を14歳と書き加える庶民のウソとはケタのちがう大ウソだと思っ

米輸入関税化の審議が始まった参議院へ行ってきました。午前中は座り込み。昼休みには議員の部屋を訪ねて陳情と要請。午後からは農林水産委員会の傍聴という日程でした。ずっと、小5の長男を連れて行動していました。

ところが、いよいよ国会の傍聴に入ろうとしたら、中学生以上でないと認めないというのです。せっかく田舎から出てきたんだと食い下がっても「規則だ」の一点張りです。



上記のつづきですが、写真は国会の中庭と傍聴券。つまり、子どもと一緒に傍聴してきたということです。

年齢の欄に書いた11歳を14歳と修正して、背丈は低いけど中学生だと言い張り、2カ所の関門を堂々と通りました。親子して、なかなか面白い体験ができたと思います。

茶番の結末

自民党総裁選という茶番劇の第1幕が終わりました。つづく第2幕は自民vs民主という対決?の構図です。これは、小沢か麻生かという選

択から、一郎vs太郎などと持ち上げられたりもします。

で、下の写真は、パソコンの文書作成ソフトです。なんだか茶番劇の結末を予想しているみたいな名前が笑えるでしょ。

